



7月31日(水)、日本財団ビルで、海洋教育研究会が開催されました。

冒頭、東京大学海洋教育センターの田中センター長が、海を「大いなる存在」としてとらえ、「あずかる」という態度で、海という贈り物を大切にすることを強調されました。

その後、パイオニアスクールプログラムの実施校の実践の口頭発表がありました。福島県の只見小学校の発表で、海のない地域で海について学ぶことにより、「視野」と「広がり」を広げることができたという部分が印象に残りました。

続いて、ポスター発表に移りました。先進地域の気仙沼市の小学校では、カリキュラムがしっかりできている学校が多かったです。また、海洋科学高校は、磯焼けの一つの原因であるアイゴを利用して、バーガーやアヒージョに加工した様子を写真とともに発表していました。

最後の情報交換セッションでは、全国各地の学校の共通した課題や今後の方向性等について討論しました。いくつかのグループから、「今までの教育実践を、海洋の視点から見直すことから始めてみてはどうか」という意見が出ていました。

総評で、東京大学海洋教育センターの日置特任教授が、「海洋と教育をどうつなげるか」について、「education about ocean」「education for ocean」「education through ocean」の3つの視点をあげて、3点目の「海を通して学ぶ」ことにより、自ら知を作る主体的な活動が実現できるのではないかと提言されました。



終了後の懇談会では、沖縄や山形、大阪など、多くの地域のみなさんと交流することができました。左の写真は、沖縄の漁師さんのゴーグルですが、100年以上たっているのではないかとのことでした。全国の海洋教育の様子に触れることができ、充実した時間となりました。



8月1日(木)、初声町の実相寺さんの寺子屋(初声小学校の前身にあたるそうです)にお邪魔して、「親子海洋教育講座」を行いました。

三浦市の海洋教育の実際の様子を紹介した後、SDGsに絡めて、海のプラスチック問題について詳しくお話ししました。保護者の方もSDGsについてはほとんど知らないようでした。

子どもたち(市内外の小学生40名)の関心は高く、こちらが用意した質問にも積極的に答えていました。一番苦戦したのは、「海のゴミの8割以上がやってくるのはどこからでしょう?」という質問でした。7~8人が迷いながら答えていました。最後に女子児童から「川から」という正解が出ました。



その後、子どもたちは、海の生き物の缶バッジ作りと塗り絵に挑戦しました。楽しそうに取り組んでいました。(左の写真)



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで